

2016年3月18日

JRC 2016／4月14～17日、パシフィコ横浜で開催

毎年恒例の春のイベントである JRC（日本ラジオロジー協会）は、日本医学放射線学会総会、日本放射線技術学会総会学術大会、日本医学物理学会学術大会の 3 学会と国際医用画像総合展（ITEM）を 4 月 14 日（木）～17 日（日）までパシフィコ横浜で開催する。

学会は、第 75 回日本医学放射線学会総会（会長：玉木長良・北大）、第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会（大会長：小倉明夫・群馬県立県民健康科学大）、第 111 回日本医学物理学会学術大会（大会長：荒木不次男・熊本大）で、3 学会が開催される。

3 学会と国際医用画像総合展の今年のメインテーマは「まなび、のびし、つなげる放射線医学」。

JRC2016 の合同企画は、特別講演として山崎直子氏（宇宙飛行士）が「宇宙、人、夢をつなぐ」をテーマに語る。合同シンポジウムは、①「次の 25 年の放射線医療の進歩を見据えて」（25 年後の放射線診断他）、②「医療被ばくの線量評価と管理」（リアルタイム線量計を用いたカテーテルアブレーション時の患者被曝線量測定に関する基礎検討他）、③「造影剤が放射線医療にもたらした功績」（造影剤の歴史と展望／造影剤注入技術と検出能／造影剤の安全性と対処法／ガドリニウム造影剤の脳内蓄積他）の 3 題について行われる。

また、14 日には画像ワークステーションを用いたハンズオンによる診断法の実際を示した「CT コロノグラフィートレーニングコース」が開かれる。

日本医学放射線学会総会では、シンポジウムとして「放射線科診療における肝臓がんの最新の画像診断と治療」「放射線治療技術の進歩—分子イメージング・分子生物学の貢献」「分子イメージングの進歩と治療への応用」「高精度放射線治療のための最適な画像診断に向けて」「がんの治療効果判定の最適化、定量化」「悪性脳腫瘍に対する放射線治療戦略と治療前後の画像診断の役割」「婦人科腫瘍の予後予測と治療戦略に向けての画像診断」「心疾患の統合画像診断」「主治医を唸らせる画像診断：攻めと守り」等をテーマに 9 つ行われる。

その他、教育講演、診断と治療に分かれた研修医セミナー、コンピュータによるポスター展示 Cypos も国立大ホールマリノロビーで行われる。17 日には、「放射線医学によるあるべき診療と研究の未来像」をテーマに、JRC アワー2016 が開かれる。

企業開催のランチョンセミナーは、CT・MRI・PET・PACS・IVR等の最新動向をテーマに、総計31のセッションで行われる。

2016国際医用画像総合展（ITEM in JRC2016）は、4月15～17日の3日間、パシフィコ横浜展示ホールで開催される。

主催はJRC（日本ラジオロジー協会）、運営はJIRA（日本画像医療システム工業会）。後援は厚生労働省、経済産業省、日本医師会、神奈川県医師会、横浜市医師会、日本医学会、日本医療機器産業連合会、横浜市等。

展示は、画像診断装置、医用画像システム、周辺機器やアプリケーションを中心に159社が出展する。

=新医療=

以上